



河小だより



四日市市立河原田小学校
学校通信 第32号
令和5年11月20日(月)
文責 校長 鳥居 純樹

鈴鹿山脈が色づき始めました。秋の風景を楽しんでいると藤原岳山頂付近に雪雲がかかるようになってきました。鈴鹿山脈が雪化粧している日も近づいてきています。

寒さとともにインフルエンザの流行もあり、医療機関では、検査キットや薬の不足なども報道されています。二学期は残すところ1か月となりました。充実した二学期の締めくくりができるように十分な睡眠、栄養たっぷりの食事で体調管理をしていただき、元気に登校してくれることを願っています。

三泗音楽会

11月16日(木)学校代表として6年生が文化会館で開催された三泗小中音楽会に参加しました。

子どもたちは朝から廊下で練習してやる気スイッチを入れ、バスに乗り込む前も昇降口で最終練習をして気合を入れて文化会館に向かいました。この日は近鉄線で事故が遭った影響で1番に歌う予定が2番となり、最初の全員合唱をステージで歌ったのち、楽屋にいったん下がってから本番に臨むということになりました。このようなアクシデントにも柔軟に対応した子どもたちの姿は運営に携わっていた他校の先生からもお褒めの言葉をいただきました。

児童集会で披露した歌声は、その時以上にきれいな歌声が響き、パートがちがっても一つの作品としてのハーモニーを奏でることができました。一人一人が大きなステージで自信をもって笑顔で歌えたこと、友達を信じて自分の力を出し切れたことは客席から見ていて河原田小学校の代表としての責任を果たしている姿でした。歌声とともに学校紹介を担当した2人は、あいさつ文を暗記してはっきりと大きな声で河原田小学校の紹介をしてくれました。

自分たちの出番が終わった後も客席で他校の合唱をしっかりと聞き、大きな拍手で他校のがんばりをたたえる姿は素晴らしく、6年生としての成長を感じることができました。

保護者の皆さまには、三泗陸上記録会に続いてお弁当をご準備いただき、ありがとうございました。子どもたちにとって大きなステージに立ち、堂々といつも以上の力を出し切れたことはこれからの自信につながると思います。お忙しい中文化会館に子どもたちの姿を見に来ていただいた保護者の皆さまも子どもたちに大きな力を与えてくれました。心より感謝いたします。



家庭科ミシンボランティアさんに感謝！

5年生の家庭科でエプロンづくりに取り組んでいます。5年生で初めて学習する家庭科、ミシンを使うことやアイロンを使うことも初めての子どもが多く、担当教員だけでは子どもたち一人一人のニーズに応えることが難しいため、6年生の一学期の活動に続き、地域の方にボランティアを募り活動を支援していただいています。

家庭科の時間には5~7名のミシンボランティアさんが各班に入っただけで、子どもたちが困ったときには支援していただいています。各班に入っただけで、子どもたちに気軽に困り感を相談したり、手伝ってもらったりできるので、順調に作業が進んでいるようです。

コミュニティスクール運営協議会で今年度協議をして学校づくりビジョン【重点5】(学校教育力の向上)「地域と協働した学校づくりの推進」の取り組みとしてミシンのボランティアを導入しました。一学期に来ていただいた方だけでなく新規に来校していただいている方も見えます。

学校教育活動を保護者の皆さまだけでなく、地域の方にも支えていただいていることは、学校として大変ありがたいことです。子どもたちは、学校だけでなく地域や家庭と協働して見守り、教え導いていくことでよりよい成長につながっていきます。これからも家庭・地域と協働して取り組みを進めていきたいと思えます。



修学旅行班別学習について

6年生の修学旅行1日目の活動で班別分散学習に取り組めます。

京都駅で解散後夕方旅館に入るまでの時間を班で計画を立てて、京都市内の目的地を2~3か所回ります。その間に昼食もとるので、班での合意形成が必要です。また目的地に行くのに市バスや地下鉄などの公共交通機関を利用するので、その時間も計算して計画を立てる必要があります。

子どもたちのキャリアにとって、貴重な体験活動となります。分散学習中の予算も制限があり、予算や時間内でいかに充実した活動ができるのかという点は、将来どんな仕事をするということになっても必要な力だといえると思います。また時間内に旅館のゴールにたどり着くためには、班での協力は欠かせません。小集団でのコミュニケーションを通して、班での分散学習の目的を達成してほしいと思います。

京都市内という大きな舞台での活動となります。班にガイドさんもつき

ますが、主体は子どもたちです。6年間の学習の集大成として、班別学習が一人一人にとって実り多きものとなることを願っています。そして班別学習で充実した活動ができることが修学旅行の最高の思い出の一つとなり、将来の大きな力にもつながることと思います。

次号では、修学旅行の子どもたちのがんばりと学びの様子を伝えさせていただきます。



